

第78回秋季東北地区高等学校野球宮城県大会

準々決勝	石巻市民球場	1 時間 40 分			打安点盗犠四三残失併
東北学院	0 0 0	0 0 0	0	0	【東】 21 1 0 0 0 2 6 2 2 1
仙台育英	3 0 0	0 0 0	4X	7	【仙】 29 10 6 2 1 4 1 7 0 1
(7回コールド14:30点灯 (左) 邊見豪志 (右) 千葉裕介)					
(球) 浅野 卓也 (一) 野田 学 (二) 三浦 徹 (三) 曾根 徳明	▽本塁打 田山 (仙)				
【東】 長沼,小河	▽三塁打 倉田 (仙)				
【仙】 福井	▽二塁打 なし (東)				
▽暴投 なし	▽捕逸 なし (仙)				

【評】
仙台育英学園、本塁打を含む10安打7得点の7回コールド勝ちで準決勝進出。
仙台育英は、初回東北学院先発の長沼から2番田山が右越え2点本塁打を放ちまず先制。2回以降は無得点が続いたが、7回に東北学院2番手小河から3連打で3点を追加し、6点差と突き放した。さらに内野安打や四球で満塁とし、2番砂が左前に7点目の適時打を放ち試合を決めた。東北学院は勝てば初の準決勝進出であったが、仙台育英先発福井の前に四番阿部の1安打のみに抑えられ、得点を奪うことができなかった。仙台育英は2大会連続49回目の準決勝進出となった。

準々決勝	利府町中央公園野球場	1 時間 57 分			打安点盗犠四三残失併
東北学院榴ケ名取	0 2 0	0 0 0	0	2	【東】 25 4 1 1 0 1 6 3 4 0
	4 4 0	0 0 0	1X	9	【名】 29 10 7 3 5 5 0 10 1 1
(7回コールド16:45点灯RL：鵜田代志昭LL：浅野雅則)					
(球) 佐藤 拓哉 (一) 毛利 晃 (二) 村上 大輔 (三) 山下 大輔	▽本塁打 なし				
【東】 伊藤泰,岩渕,相澤	▽三塁打 齋,佐藤蒼(名)				
【名】 五十嵐	▽二塁打 なし (東)				
▽暴投 相澤1(東),五十嵐2(名)	▽捕逸 なし (名)				

【評】
名取北が序盤の集中打で東北学院榴ケ岡を突き放して快勝、初のベスト4進出を果たした。初回から名取北の打線が繋がり、2本の3塁打を含む4安打に相手の失策も絡んで4点を先制。2回にも3安打2四球に相手の失策も絡んで更に4点を追加。その後は、投手陣が踏ん張って中盤まで膠着状態となったが、6点差で迎えた7回に名取北が四球を足掛かりに、犠打と2本の内野安打でしぶとく1点をもぎ取って試合を決めた。東北学院榴ケ岡は、2回に3安打を集めて2点を返したものの、それ以外は3回の1安打のみで4回以降は無安打に抑えられ、無念のコールド負けとなった。

準々決勝	石巻市民球場	2 時間 36 分			打安点盗犠四三残失併
仙台第三	0 0 0	2 0 0	1 0 0	3	【仙】 35 8 3 3 0 6 5 11 4 0
東北	0 0 3	2 0 1	1 0 X	7	【東】 35 11 7 4 3 5 5 12 2 1
(球) 山館 浩樹 (一) 三浦 徹 (二) 佐藤 拓哉 (三) 野田 学					
【仙】 井上,高橋元,平野	▽本塁打 なし				
【東】 和泉,狩野	▽三塁打 服部(仙),梅田(東)				
▽暴投 井上2,高橋元1(仙)	▽二塁打 なし (仙)				
	▽捕逸 高橋純1(仙)				

【評】
東北が7対3で仙台第三を下し準決勝進出。東北は3回に四球、長打、盗塁を絡めて3点を先制する。続く4回には仙台第三が2点を返し一点差と迫るが、東北も2点を追加し流れを相手に渡さない。7回には仙台第三が二死満塁の好機を作り、押し出しで1点を返したが、続く打者が空振り三振に倒れ反撃はここまでであった。東北は2番打者梅田が4安打を放つ活躍でチームを勝利に導いた。守っては、先発の和泉がどんどんストライクを投げ込むテンポの良い投球を見せ、失点2（自責点0）と流れを作った。仙台三も再三走者を許しながらの守備であったが、粘り強く守り抜くなど健闘した。勝利した東北は、決勝進出をかけて日本ウェルネス宮城―気仙沼の勝者と対戦する。

準々決勝	石巻市民球場	2 時間 28 分			打安点盗犠四三残失併
気仙沼	0 0 2	1 0 0	1 0 0	3	【気】 42 14 5 2 3 2 6 12 1 0
ウェルネス宮	0 0 0	0 1 0	0 0 3	2	【ウ】 40 11 6 0 1 2 8 9 2 0
(延長10回タイブレーク)					
(球) 佐々木 瞭太 (一) 浅野 卓也 (二) 浅野 雅訓 (三) 新田 健治	▽本塁打 なし				
【気】 斉藤	▽三塁打 星(ウ)				
【ウ】 平松,高橋心,川崎,高橋心	▽二塁打 なし (気)				
▽暴投 平松1(ウ)	▽捕逸 中川1(ウ)				
	新沼 (ウ)				

【評】
延長10回タイブレークの熱戦を勝ち上がったのは、選手10人の気仙沼。30年ぶり8回目のベスト4進出。気仙沼は、10回表先頭の投手前バント安打で作った満塁のチャンスに、7・8番は打ち取られたものの四球と1番斉藤のレフト前安打で3点を上げ再度リードした。その裏1点差まで詰め寄られた一死2・3塁のピンチも、最後は先発投手の斉藤匡輝が踏ん張り、2者連続三振で切って取り、念願の勝利を手に入れた。日本ウェルネス宮城も、9回に3点差を迫につき、さらに10回も1点差まで迫る粘りを見せたが最後の1本が出せず、初の準決勝進出の夢を絶たれた。